

令和5年11月21日

茨城県都市整備課

弘道館医学館開設 180 年記念企画のご案内

本年（2023年）は、天保14年（1843年）の弘道館「医学館」開設から180年の記念の年になることから、「記念シンポジウム 徳川齊昭と食菜録」と「企画展 水戸藩の医学と弘道館医学館」を開催します。

つきましては、取材についてご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【記念シンポジウム】

徳川齊昭と しょくさいろく 食菜録－江戸時代の食と医学－

「医学館」を開設した徳川齊昭は、医学だけでなく食にも強い関心を持ち、約300種におよぶレシピ集『食菜録』を編さんしました。今回、『食菜録』の分析や普及に取り組む水戸食菜録研究会の各専門家を講師に招き、食と医学について考えるシンポジウムを開催いたします。

○開催日時：令和5年11月26日（日）14：00～16：00（開場13：30）

○会場：茨城県立歴史館 講堂

○内容：基調講演1「徳川齊昭の人間像」（30分）【講師】永井博（茨城県立歴史館特任研究員）

基調講演2「食菜録を読む」（30分）【講師】中川純一（中川学園調理技術専門学校校長）

パネルディスカッション「齊昭の思想と食菜録を現代に活かす」（40分）

【パネリスト】永井博、中川純一、荒木雅也（茨城大学教授）、赤岩正樹（同特命教授）

【コーディネーター】瀬戸祐介（弘道館事務所研究員）

【総合司会】小坏的り子（弘道館事務所主任研究員）



【企画展】

水戸藩の医学と弘道館医学館

徳川齊昭は医学館開設の主旨を「さんてんどうき 贊天堂記」に示し、自らも医学・医療への高い関心を持ち、しゅとう 種痘の普及等に尽力しています。今回は、水戸藩の医学の歴史や医学館における医学教育・種痘・製薬などの活動、水戸藩の薬草について、パネルや資料でご紹介いたします。

○展示期間

【第1期】令和5年11月11日（土）～令和6年3月31日（日）

副題：疫病との闘い－種痘とコレラ予防－

【第2期】令和6年4月1日（月）～令和6年6月30日（日）

副題：医学館の製薬と水戸藩の薬草

○展示場所：弘道館展示室



△ 贊天堂記

■お問い合わせ先

弘道館事務所

担当：萩野谷・瀬戸（TEL：029-231-4725）

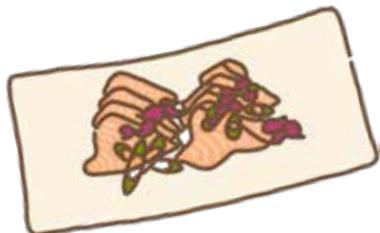
茨城県土木部都市整備課

担当：小沼・岡崎（TEL：029-301-4660）

弘道館医学館開設180年記念シンポジウム

徳川齊昭と食菜録

—江戸時代の食と医学—



本年(2023)は、天保14年(1843)の弘道館医学館開設から180年の記念の年です。弘道館及び医学館を開設した徳川齊昭は、医学だけでなく、食にも強い関心を示し、『食菜録』を編さんしました。

現在、『食菜録』を分析し、多くの方に知っていただく取り組みが水戸食菜録研究会で進められています。本シンポジウムでは、水戸食菜録研究会の各専門家の講演やパネルディスカッションをとおして、江戸時代の食と医学について考えます。

日時: 令和5年11月26日(日) 14:00~16:00 (開場13:30)

会場: 茨城県立歴史館講堂

参加料無料

内容: 基調講演1「徳川齊昭の人間像」(30分) 講師 永井博(茨城県立歴史館特任研究員)

基調講演2「食菜録を読む」(30分) 講師 中川純一(中川学園調理技術専門学校校長)

パネルディスカッション「齊昭の思想と食菜録を現代に活かす」(40分)

パネリスト: 中川純一 永井博

荒木雅也(茨城大学教授) 赤岩正樹(茨城大学特命教授)

コーディネーター: 瀬戸祐介(弘道館事務所研究員)

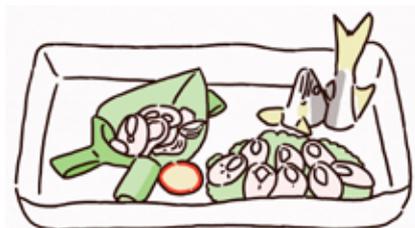


申込方法: 10月23日(月)より電話受付

定員200名・先着順

弘道館事務所 029-231-4725

受付時間 月~金 9:00~17:00



会場アクセス

茨城県立歴史館 〒310-0034 水戸市緑町2-1-15

バスをご利用の方 JR常磐線水戸駅下車、北口4番バス乗り場から「桜川西団地」行きなど
偕楽園方面行き乗車約10分、「歴史館偕楽園入口」下車、徒歩2分

車をご利用の方 常磐自動車道水戸ICから約7km、15分JR常磐線水戸駅(北口)から約3km、7分

主催 茨城県水戸土木事務所
偕楽園公園課弘道館事務所

後援 国立大学法人茨城大学

食菜録について

『食菜録』とは、徳川齊昭が編んだと伝えられるレシピ集であり、約300種類のレシピが掲載されています。

石島績著『水戸烈公の医政と厚生運動 下巻』（日本衛生会 1943年）に全文が翻刻、所収されています。



水戸食菜録研究会とwebサイト

荒木雅也茨城大学教授を主幹とし、令和4年4月に発足した各分野の研究者による任意団体です。『食菜録』の内容・意義の調査・研究を行い、研究成果の公表、料理再現動画等を含めた食菜録webサイトの公開運営などによる『食菜録』の知名度向上、『食菜録』掲載の料理の普及、水戸の食文化に対する評価を高めることなどを目的として活動しています。詳しくは食菜録webサイトをご覧ください。



SHOKUSA-ROKU/しょくさいろく
食菜録

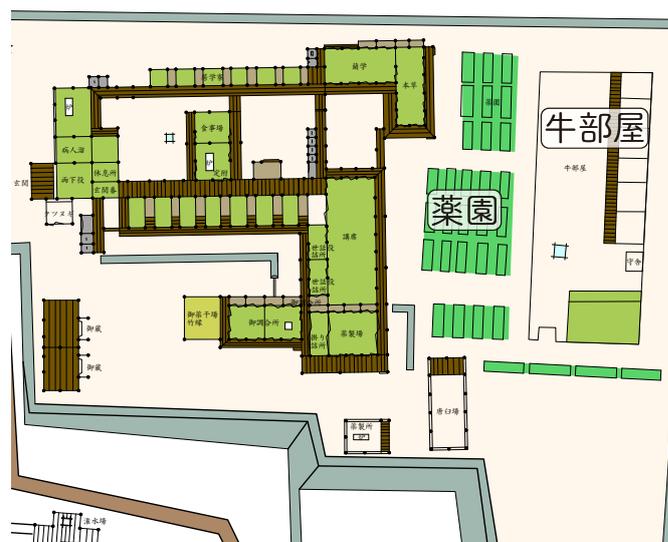
食菜録webサイト

<http://arakilab.hum.ibaraki.ac.jp/syokusairoku.html>



弘道館の医学館について

弘道館は、水戸藩9代藩主徳川齊昭によって天保12年（1841）に創設された藩校です。齊昭は弘道館の教育方針から施設配置まで多くを主導し、2年後には敷地内に医学館を設立しました。医学館では、2代藩主光圀以来の水戸藩の医学の伝統をさらに発展させ、領内の医者たちの医学教育・研修のほか、製薬や種痘などに力が注がれていました。弘道館の一角には、図のように薬園や「牛部屋」も設けられています。「牛部屋」では、牛乳をしぼり、牛酪（バターのようなもの）を製し、必要な人にわけていました。



医学館（弘道館全図の一部）



弘道館事務所

〒310-0011 水戸市三の丸 1-6-29 ☎029(231)4725

🌐<https://www.ibarakiguide.jp/site/kodokan.html>

医学館開設180年記念企画展

水戸藩の医学と弘道館医学館

弘道館医学館は、天保14年(1843)に水戸藩の医学教育・医療機関のセンターとして開設されました。9代藩主徳川齊昭は、医学館開設の主旨を「賛天堂記」に示し、自らも医学・医療への高い関心をもち、種痘の普及等に尽力しています。

令和5年(2023)は医学館開設から180年の記念の年であることから、水戸藩の医学の歴史や、医学館における医学教育・製薬・種痘などの活動、水戸藩の薬草についてパネルや資料でご紹介します。

徳川齊昭肖像



賛天堂記拓本

会期 ※12月29日～12月31日は休館日です

第1期

令和5年11月11日～令和6年3月31日
疫病との闘い—種痘とコレラ予防—

会場：弘道館展示室

第2期

令和6年4月1日～令和6年6月30日
医学館の製薬事業と水戸藩の薬草



弘道館ウェブサイト

- 開館時間 9:00～16:30 (10/1～2/9)
9:00～17:00 (2/10～9/30)
- 観覧料 大人400円 小中学生200円
満70歳以上200円
- アクセス JR水戸駅北口から徒歩約8分
常磐自動車道水戸ICから約30分

